週刊RO通信

#### 2001年

奥井 禮喜



有限会社ライフビジョン

| 週刊RO通信 2001年 目次<br>誰が世論を作っているか<br> | 6 10 6 |
|------------------------------------|--------|
| んか食い足らないんだ                         | 4      |
| 本当に景気回復の妙案ありや                      | 3      |
| 琵琶湖のヨットマン                          | 22     |
| ポピュリズムとは何か                         | 26     |
| 庶民的人気と権威・権力                        | 30     |
| 今こそ野党の大胆演説が期待される                   | 34     |
| どんな報道になるのだろうか                      | 38     |
| 観客民主主義への危惧                         | 42     |
| 梅もぎの一日                             | 46     |
| 拝金時代と人生設計の意義                       | 50     |

| : 11                  | letter from Afghanistan |
|-----------------------|-------------------------|
| 10                    | 「顔が見える」という意味            |
| 10                    | 破壊と報復の非創造性              |
|                       | 雇用を守る組合の視点――2           |
|                       | 雇用を守る組合の視点              |
|                       | 食べ物の話ですが                |
| :<br>:<br>:           | 国益と市民政府論                |
| :<br>:<br>:           | 大東亜戦争の虚妄                |
| 7                     | 天皇の軍隊と首相の靖国参拝           |
| 7                     | 参議院選挙・人気投票終る            |
| 7                     | グローバルの意味を問い直す           |
|                       | 自民党の解体が本格化する            |
|                       | 変革の論点を明確にせよ             |
| :<br>:<br>:<br>:<br>: | 成果主義の一断面                |
| :<br>:<br>:<br>:      | 変革とは何か                  |

| 172 | つの新年              |
|-----|-------------------|
| 168 | 改革と濡れ雑巾           |
| 164 | 時間よ留まれ、お前はいかにも美しい |
| 160 | 大企業病を退治しなくては      |
| 156 | ささやかに「意気」を贈る      |
| 152 | 報道、報道、報道          |
| 148 | 経綸ありやなしや          |
| 144 | 肉食黎明期             |
| 140 | 目的的に生きるべき人間       |
| 136 | 裏金事件が示唆する問題       |
| 132 | 元気のお裾分けです         |
| 128 | 戦闘拡大に反対する         |
| 124 | 日本人が失ったこと         |
| 120 | 元気溌剌、中国で働く日本人     |
| 116 | 宗教戦争がありうるのか       |

| あとがき | 楽列車走る2 | シュンとうの本当の問題20 | 間観梅会 | 手前味噌の宣伝ですが20 | 快と明晰の違い1 | 詰まり将棋の行方は1 | 耕型の魅力18 | (人と玄人の違い18 | 人たちは闘っているか1 | 大の政策を考える1 |
|------|--------|---------------|------|--------------|----------|------------|---------|------------|-------------|-----------|
| 217  | 212    | 208           | 202  | 200          | 196      | 192        | 188     | 182        | 180         | 17        |

## 誰が日本を作ったのか

然とするしかなかったらしい。きちんと燃えて、そして尽きられたのではなかっただろ を貫かれた。亡くなる前も、まったくそれらしい様子なく、突然の死で、友人はただ唖 友人の父上が亡くなった。八二歳であった。職人さんで、人生すべて職人の粋な気風

隅々まで貫かれているということを聞いた。たぶん酒でも飲んでいたときじゃなかった かと思う。いい気分であった。 詳しくは知らないけれど、友人から、何かの拍子に父上が職人で職人気質が生活の

くていけない。 くてもよくなってしまう。プロフェッショナルって言葉もあるけれど。どうもバター臭 私は職人という「語感」がすごく好きだ。それだけで気分高揚して、それ以上聞かな

という雰囲気を感じさせず、ぴしっとしている。職人の息子だ。こういうのが男らしい 友人は学者肌。見た目には柔なのだけれど、いつも筋が通っている。筋が通っている

のだと、常々感じ入っている。

は知っておられるだろう。紡績工場の女工さんたちの日々苦闘を描いた、本物のルポル 社から初版が出た。それからもひたひた版を重ねている。読んだことのない人でも名前 タージュである。 細井和喜蔵さんの「女工哀史」を読んでいた。大正一四年(1925)七月、改造

で機屋の小僧で自炊生活に入り、ざっと一五年間紡績工場の職工をしておられた。貧し 親代わりのおばあ様が一三歳で亡くなって、尋常小学校五年生で学校はお終い。一三歳 い時代でも、さらに貧しかった。 細井さんは学校など出てはいない。父上は生まれぬ前に、母上は細井さんが七歳で、

続け、ついにまとめあげられたのが「女工哀史」である。 その間、女工たちの日常に痛烈親愛の眼差しを注ぎ続け、社会の在り方に義憤を抱き

作を残されたと思えば、わが軟弱さが痛い。 そこらのインテリ連中とは訳が違う。一三歳で小僧生活しながら、よくもこれだけの著 失礼かも知れぬが、文章は並のインテリジェンスではない。読まれていた本もまた、

細井さんは、関西で組合活動に着手したが、黒表(こくひょう=会社で不都合があっ

亀戸にある紡績工場に勤務するが、たまたま争議発生、 たとして、あちこちの会社に履歴が回される)がつき、 一緒に行動して、さらには仲間 容易に就職できず、上京する。

の党派争いと讒言にあって退職する。 う」と決心したのが、この著作であった。 最中、関東大震災(大正一二年=1923)が発生する。「石に齧りついても書き上げよ

住の三○年ほど以前、としをさんに何度かお目にかかった。もう六○歳は越えておられ その悪戦苦闘を支えられたのが、妻の高井としをさんであった。私が兵庫県伊丹市在

たと思う。

業対策事業の「ニコヨン」といわれた、道路工事や清掃作業などをしておられた。(ニ 私が出会ったころ、半世紀にわたって一人でがんばっておられたのであった。仕事は失 細井さんは「女工哀史」が出版されて一ヶ月後に亡くなった。としをさんは、だから

コヨン=日当 240 円)

て話される。としをさんも、かつて紡績女工であった。 しかし、ぜんぜん暗さなどなかった。明るくて、寡黙で、いつも他人の目をきちんと見 ちいちゃなおばあちゃんであった。日焼けして真っ黒、皺が深く刻まれた表情には、

れど、質問できなかった。聞いておけばよかった。 たのだ」というようなことを話された。にこにこして。私はもっと聞きたかったのだけ すこしあやふやな記憶であるが、としをさんは「あの人は女工哀史を書くために生き

寄りは耐えて生きるだけであった。にもかかわらず、としをさんの屈託ない、元気な印 に掛け合っていたころである。今みたいに年金が成長していなかった。本当に孤独な年 象は今も消えない。 失業対策事業を国・自治体が打ち切るというので、地域の組合が一緒になって自治体

た。それでも彼女たちもまた、「女工」であった。 が浮かんでくる。もちろんすでに「女工哀史」時代ほどえげつない労務管理ではなかっ 「女工哀史」を読むと、私が工場勤務したころの、テレビ工場の女工さんたちの表情

表される名もなき人々だったと言いたいのである。 今の日本の経済的繁栄を作ったのは、金融なんかではない。職工や「女工」さんに代

2001.4.2 (月)

## 誰が世論を作っているか

キャスターも勝手である。自由って何と素敵なんであろうか。 ず登板している。個人的意見も、好き嫌いも、それぞれ本人の勝手である。テレビ局も 方々、「よくぞ言った」と共感しておられるケースも少なくない。だから番組降ろされ のキャスターが何を言おうと嫌い。肌合いが合わぬ。一方、自分が言いたくても言えぬ 感。自分の意見を言うのだから自分の金・機会を使ってやってほしい。もっとも私はそ 顔して公共放送たるテレビで個人的意見を吼えるのか――と憤りのメールをくれた。同 少し旧聞。若い友人の一人が――どうして芸能人上がりのキャスターもどきが大きな

彼のコメントは畢竟新聞社のテキストによるものか。 れるが、刺身のつま。いちいち世論を調べて、シナリオ作成しているわけではない。テ ントは、しからば「世論」であるか。ここが難しい。たまに意識調査らしきものが出さ レビ局の背後に大新聞社あり。新聞社的論調を大枠で超えているわけではない。さらば ところでキャスターがあまりに個人的見解ばかり喋るとすれば降ろされる。彼のコメ

学ばせてもらっているとお考えではあるまい。いわば日頃の鬱憤晴らし、苛々・ストレ 部を投資して、新聞社の思想を拝聴するわけである。しかしテレビのキャスターを見て、 が代表している世論とは所詮新聞社自身のオピニオンに過ぎぬ。人々は少ない所得の一 ス解消拡声器くらいの感覚なんではなかろうか。 るのであるが、新聞社とていちいち意識調査して論説作成しているわけではない。新聞 では、新聞社は世論を代表しうるか。ちょいと目にはそういう風に皆様信じておられ

作られていなければならない。諸兄弟姉妹におかれて、その確信ありや。 テレビを作っているのではなくて、新聞・テレビが世論を組織している(のではないの て作られているのであろうか。社会が健全だというならば新聞・テレビは世論によって ではあるのだけれど――ところで「世論」って何だろうか。新聞、テレビが世論によっ 世論が新聞

これは)という声は自民党内のごく一部に過ぎず。まさしく闇将軍の時代は終わり、マ 軽率の類に極まり、「人気で首相の首をすげ替えるなんてことでいいのか」(正論だよ) 森降ろしの大合唱はマスコミによって生産拡大された。槍玉に上げられたのは失言・

スコミがキングメーカーの時代が開幕した。

あるか。いちばんの政治的焦点が景気だとすれば、この点、マスコミには明確な調査・ ある。「景気がよくならない」のは果たして首相のせいか。首相交代させれば特効薬が 気にも単なる人柄・雰囲気もあれば、政治業における政策・行動・言動に対することも ここに問題がある。人気などは思考不要。まったく個性のなす仕業である。しかし人

分析・報道・評論の責務があるはず。

ところは同じである。「芸能出身者に何がわかるか」という気持ちはわかるが、ジャー ナリズムの現状もまた、それと大差はない。 の標的があれば事足れり。かくして天下の大新聞も芸能出身のキャスターも狙っている システム崩壊が国を滅ぼす――という教条について解明する見識など皆無じゃないかね。 早く言えば、「一億総いらいら化」、ヒステリー一歩手前の鬱屈状態。何か鬱憤晴らし しかし、首相が代表する政府の金融・財政政策について――本質的に何が問題なのか イリアム・ジェームズ(1842‐1910)という米国哲学者は言ったね。——人間の文 を追及してみせたマスコミがあっただろうか。寡聞にして私は知らない。――金融

化というものは、われわれの頭の中にある諸観念を無作為に再放射させたものである

ものが選択され、 したり、 やはり、 人はみな自分だけの虚構に埋没している可能性が高い。その虚構に照射して心地よい 曲げたり、翼賛を宣伝するのは、強大な!国家権力だけとは限らない。 わが国は曲がり角にあるんだね。 いかにも「世論でございます」とばかり舞い上がる。 「世論」を誘導

2001.4.9 (月)

# なんか食い足らないんだねえ

№. 三 四

自民党総裁選挙が始まった。蚊帳の外からではあるけれど、いささかの感想と期待を

述べたい。

も自民党がエネルギーを喪失しているというのは間違いない。 やはり「弾」いや「玉」がいなくなったんだねえ。マスコミのおちょくりではなくて

がたには、そりゃあたいした人気であった。一度転落してドサ回りして、またまた花の お江戸舞台に復帰の芝居打つんだから、もう少し覇気や、下積み経験した味わいちゅう 橋龍、首相になる前はちょいとした役者ポーズで自民党婦人部の中高年以上のご婦人

もんが滲んでいてもいいのじゃないかな。

にするのは虫が良過ぎる。第一、応援団は自分が親分やっていた派閥じゃないか。 はない。だいたい森首相と同じ派閥、急遽派閥脱藩したからとて、派閥解消を大義名分 変人小泉、真紀子が応援してくれるからとて、国民的人気なんてものはそうそう甘く

亀井某、頭と要領はいいらしい。一見豪放磊落。しかし、発言聞いていると橋龍別働

うだが、今までもそうだった。何でうまくいかなかったのかきっちり分析できないよう 隊。もっぱら小泉の矢面に立っているっちゅうのは、どうも解せない。景気最優先だそ では、首相の玉にあらず。

意欲がほしいが、これまた、参加するに意義ありの五輪精神。今ごろ五輪選手だって勝 が低迷しているのが、わが国の現状ではないのかな。新人らしくもっと爽快に挑戦する つために一所懸命だぜ。 麻生某、経営者ご出身。経営センスを政治に生かすと言うが、その経営者たるセンス

ところが、蚊帳の外の人々の感覚ではありますまいか。 くれだけで批評するのは失礼とは思っていますが、いかにも、こんなものかいなってな まあ、そりゃあね、格好よくてもふにゃふにゃって、殿の前例もあるからして、見て

ど、それはそれでおっさんたちが血道を上げて必死に闘っているという立ち回りのおも 返って、自民党てんやわんや。 しろさがあった。「三福大角中」、今様太閤とマスコミが持て囃した角栄首相がでんぐり それにつけても思い出すのは椎名裁定。派閥戦争賑やかそのものの時代であったけれ

皆さん大物は大物であっても手垢に塗れ、何とか新鮮味出さにやいかん。そこで「省

せた裁定。一九七四年一二月。クリーンで売っていた最小派閥、 事」座右の銘とする、ポーカーフェイスの椎名悦三郎登場して、 したものだから、大した芝居であったぞ。 傍系の三木武夫を指名 世間を「あっ」と言わ

じたことはない。政治記者やっててよかった!」と感激の面持ちであったなあ。今は昔 私の友人政治記者某などは三木番になって「政治が動くというのをこんなに身近に感

ができる。まして政治家は自分たちの志達成するためにパーティを組織する。政治家と は派閥と同義語と言ってもいい。 は派閥はかつてのような派閥ではなく、解体過程にあるのじゃないか。三人寄れば派閥 すでに自民党に椎名のような役割を果たせる「玉」がないのもわかった。その意味で

総裁選今日までの概観であろう。 しく一枚岩。自民党もまた大派閥そのもの。自民党すでに梁山泊の面影なしというのが、 過日も水滸伝引用したけれど、梁山泊集団が破竹の勢いであったときは、派閥はまさ

もあほではあるまい。 般党員選挙がちょいと拡大されたくらいで、自民党が変わったと思うほど蚊帳の外

だからその自民党がしっかりしなけれゃならぬ。だから初めに自民党ありきなのだ ---気になることは、自民党の方々がおっしゃる――国民は自民党しか頼りにならない。

うのじゃないかな。 そりゃあ消去法でひょっとしたらそうなっているのかもしれないけれど、根本的に違

というセンスである。

てきている。自民党が分裂し、連立組まなきゃやっていけないのが、その証拠じゃない 野党も確かにだらしがないけれど、そのだらしない野党との力関係はずいぶん変わっ

総員一斉奮起せよ。誰が蚊帳の外をつかむか、それが問われているのだからね。 誰が勝っても自民党の参議院選挙は、うーん、危ういのじゃなかろうか。他党の皆さん、 総裁選、自民党の人材的台所事情もよくわかった。まさしくdiscloseってところだ。

2001.4.16(月)

# 本当に景気回復の妙案ありや

総理総裁になればさらなる打ち出の小槌でもあると言うのであろうか。面妖な。これ今 構わず景気対策をやってきたはずではなかったのか。その結果が今の体たらくであって、 景気だ、景気最優先だと吼える候補。しかし、すでに自民党・政府・与党はなりふり 自民党総裁候補の話を聞いていて、どうも解せないことがある。

ばじゃぶじゃぶある。じゃぶじゃぶあって、銀行はお金を借りてくださいと、相当なミ ンフレ政策をとるように迫ってきた。ところが、お金が銀行にないのではなく極論すれ まで自分が手抜きしていたのでなければ成り立たぬ理屈である。 ニカンパニーにまで接近してくる。 政府は日銀の金融政策が景気の元凶と言わんばかりに、挙句は量的緩和という名のイ

れない」関係になっている。 とはいえ、業績や担保が問題で、貸したくてもリスクを考えれば「貸せない・借りら

般投資家がもっと株に手を出すように「育成」しなくちゃならぬという、生涯教育

三四

遺言」で株に手を出さないわけではなく、実は出したくても魅力的な株がないのであろ 般投資家だろうが、儲からなくては投資はしたくない。一般投資家のすべてが「親の :いの商売教育的動きもあるらしい。しかし、投資家たるもの、機関投資家だろうが

資産は増えている。要するに企業活動があかんのだ。 企業の借金棒引きしてあげて、借金の重しがとれても、直ちに商売が好転する保証はな と商売してこなかったツケが出ているに過ぎず。はたまた、銀行が投資している不採算 い。お国の資金を相当銀行に注入して不良資産に決着つけよとやってきたけれど、不良 今の日本経済は金融システムに問題ありというが、仔細に見れば、個別銀行がきちん

況の元凶。企業がふらふらと腰の据わらぬ経営しているから、一般投資家は株に投資し たいと思わない。 企業は相変わらず、コストダウン程度の政策しか打ち出し得ない。ここが要するに不

でももらえればいいのか。かつての仲間の身代金を分配してもらったようなもので、次 をポンとお出しになったという話。果たして社員は心から喜べたであろうか。どんな金 最近腹が立ったのは、昨年後半大量に希望退職募った企業が利益を出して、ボーナス

はわが身かと思えばなおさら気持ちがよくはなるまい。こんな経営者がどうして救世主

発想を逆転してはどうだろうか。

なんだろうか。

大しない。企業が出すものは鼻血も出さぬという体たらくで、そこの「消費者たる」社 コスト主義ではなくて、雇用を第一に考える。雇用が不安定では絶対に個人消費が拡

員がささやかな財布の紐を緩めるものか。

提案を発表する。コスト削減などは無能な経営者でも誰でも思いつくことだから、これ は新しい提案には含まない。もし、企業を動かせる新しい提案が出てこないのであれば、 雇用には手をつけない宣言を経営者が明確にする。そして次は、経営者が何か新しい

経営者が希望退職する」。

今までの自分とは異なるレベルヘランクアップして、自分を鍛えることになる。これこ クに自分を鍛え上げることになる。ナンバー3がナンバー2になる。かくして全社員が、 そうすると、ナンバー2がトップに踊り出る。最低限、ナンバー2は一つ上位のラン

そが全社挙げての挑戦の構図である。

お分かりであろう。元気であったときの企業は新製品開発であろうが、販路開拓であ

かったのだ。IT革命だ、ベンチャーだ、一般投資家だと少しも具体的でないことに血 ことに挑戦せずちんまりと蛸壺生活していたのだから、コスト削減しかすることがな ろうが、常に社員が従来活動の殼から出る構図になっていたはずだ。今の企業は新しい

道を上げるのは止めよう。

う。 余裕はない。常に人手不足が醸成されていた。政治に景気対策など期待するのは止めよ 積み重ねである。 であって、設計の方々、現場の方々の日々生業ときたら気が遠くなるほど地味な努力の けてきたけれど、NHKプロジェクトXが描くような絵になるドラマはほんの一部なん 私はかつて先端技術、開発即納品のリスキーこの上ない設計職場の皆様の活躍を見続 みんなが「やれることをやる」。そうであれば人員削減などしている

2001.4.23 (月)

#### 琵琶湖のヨットマン

降ろされて、自信満々本命!橋龍が惨敗。一連の騒動を通して、自民党内部の暗闘がや や透けて見えたのは上首尾であった。 まことに人気というもの、奇妙奇天烈、面妖な。人気ゼッ不調にて森首相が引きずり

する向きあり。あながち外れているとは言えぬが、正しくは自民党に吹いている風その に受け止めざるをえず、最初は消去法で小泉が手掛かりをつかみ、客寄せパンダの奮闘 ものは依然としてアゲインストである。 だから従来の実力者、自民党を代表していると見られる主流派が国民的不人気を一手 ところで自民党内部には、従来、新党にばかり吹いていた風が自民党に吹いたと歓迎

特徴はなく、自分が全力で守るといった森政権の政策に対する批判があるのかないのか、 民党を変える」「派閥解消」「構造改革」といったキャッチコピー以外にさしたる政策的 そもそも圧倒的多数の国民諸兄におかれては「Koizumi who?」なのであって、「自 ぶりもあって、大衆のもつパレード性が引き出され、ブーム化したに違いない。

葉に酔う気配はあるけれど、ポンポンまくし立てる馬力は、なかなかの個性表現。昨今、 しかし、見るべきものはあった。メモなど見ず、徹底的に顔を上げて、やや自分の言

さっぱりわからない。鵺だ。

衆自身が作ったイメージが時間を追って膨張し、一種の革命ごっこ気分。 堂々と物言う人の少ないなかで、好感もった人は少なくなかろう。 口を言う――これ、本当は天に向けて唾しているのだけれど――小泉人気が高まり、大 高まった人気に自民党員はびびり、バスに乗り遅れるなよろしくまず地方党員が踊り、 風の本質は、国民大衆の苛々、逼塞感から、もっとも主流派から遠くかつ自民党の悪

さらに国会議員も反発・反論すればバッシングに見まわれるとの危機感募り、あれよ、 あれよ「ああ、やっちゃった」ってなところだ。

今の段階では、小泉新首相が inovator であるのか、agitator に過ぎぬのか、評価は はっきりしていることがある。小泉首相は世論という風を受けていなければ裸の王様

盤の弱さが直ちに露呈することになる。 だ。したがって常に国民に語りかけるポーズと政策・行動を取り続けなければ、党内基

玉

昨今はもっと短いかもしれない。 で政治を考えてはいないのだから、パンダに飽きれば、直ぐ放り出す。人の噂も七五日。 |民諸兄の後押しなど期待して、勝利に酔っている暇はない。 失礼ながら大方は本気

られるに過ぎない。参議院選挙まで、偶然七五日くらいが、首相の発言を大目に見る期 と反してくるのは必然。自民党=自分党の方々、選挙に具合がいいかどうかで考えてお で、国民向けリップ・サービスやればやるほど、自民党の組織基盤、議員らのご都合

間である。

直ちに自分党得意の暗闘が開始する。 いかに派閥が原動力であっても、すべて手柄は小泉のもの。負けたり、横ばいならば、 になる。個人的人気だけで通っている議員は全国的にもそうそう多くはない。勝てば、 首相としては参議院選挙勝利しか活路はない。選挙は結局派閥が必死に機能する選挙

てなところが具合がいい。そして自派閥は膨張させたい。派閥結束乱した不埒な首相の マグマのごとく沈潜、蓄積しつつある。かの本音言えば、参議院選は勝利感なき勝利 脱派閥なる看板」の派閥に勝たせてなるものか。全部の派閥まとめてしまえば、これ 今度の参議院選はかなりおもしろくなった。一敗地に塗れた橋本派の怨念はただいま

また脱派閥ゆえ、従来派閥は党内覇権獲得するには他派はくたばれ、自派の勝利あるの

気があったのに何もしなかったものなあ。 うことかいな。「人気があるからって何言うてもいいのと違う」とはたか子姫だが、人 きるものじゃない」などとコメントしておられたが、これ、改革標榜している党首の言 野党の皆さん、ぼやぼやしててはなんねえぞ。ハトボン、「改革なんてそう簡単にで

うか。 微妙な風を嗅ぎ取り、快走するのは大変だ。新首相は琵琶湖ヨットマンになりうるかど 琵琶湖で鍛えたヨットマンは技術が優れているという。しばしば風がなくなるからだ。

2001.4.30 (月)

## ポピュリズムとは何か

No. 三 四 四

新首相登場以来、政治面解説らしき記事に――ポピュリズム(大衆迎合)――なる言

葉がしばしば登場する。さて。

ティズムという。有産階級と無産階級の均衡上に立って両階級の調停者のように振舞う リア連合軍に敗北してエルバ島に流される。脱出して再デビュー図るけれどワーテル ○四年帝位につく。欧州大陸征服後、モスクワ遠征失敗、プロシア・ロシア・オースト あったが、軍功立てて一七九八年フランス革命後、クーデーターを起こして執政。一八 ーの戦い(1815)に敗れセントヘレナ島へ流されて没す。 ナポレオン・ボナパルト一世(1769-1821)といえばコルシカ島生まれ、砲兵士官で ナポレオン・ボナパルト一世および甥の三世の政治をBonapartisme (仏) =ボナパル

エミール・ゾラ (1840 - 1898) が「居酒屋」を発表したのは一八七六年。本来小説に

のであるが、政権の大衆的基盤は保守的な農民で、政権の本質は有産階級支配であった。

すべくもない庶民生活の悲惨・汚辱・無知蒙昧を意図的に描いたものだとして非難轟々 であったという。今、読めば自然主義文学の名にふさわしい堂々たる小説で、ルポ・ノ

ンフィクションのごとくである。

部を裸にした。下層部の傷口もまた隠すことをしない。党派的でもなく、プロパガンダ 家だ。労働者階級を描いた私の絵はことさら陰影もぼかしもつけずに描く。社会の上層 でもなく、真実の作品である」と語る。 非難の渦中でゾラは「自分はある意味でジャーナリストかもしれない。しかし、小説

なか、アントワネットが子供の手を引いてバルコニーへ出ると「殺せ」「撃て」とさら に轟々非難の声高まる。 「金食い虫のぜいたく三昧め」「バイタめ」「ウィーン女をやっつけろ」。罵詈雑言の嵐の フランス革命、空腹に耐えかね市民たちがついに立ち上がり、ベルサイユ宮殿を襲う。

体であったという。ボナパルティズムの根っこを感じさせるじゃないかね。 釈すると、群集のなかから「王妃万歳」の歓呼が高まり、「殺せ」と「万歳」が渾然一 アントワネットが優雅に――たぶん極めて優雅であったのだと想像するのだけれど会

やがて一九二九年以降、Populisme(仏)=ポピュリズムとて、庶民生活を審美的に

描く傾向の文学が登場する。さて。

合」と書けばいい。なぜそうしないのか。 リズムなる言葉一筋縄では行かぬ。わざわざ( ) つけて書かずとも最初から「大衆迎 最近、 新聞が ――ポピュリズム(大衆迎合) -と書く。 くどくどしく言えばポピュ

鐸たる新聞は遠慮がちに――ポピュリズムに流されちゃなんねえぞ――と警鐘鳴らす構 て新首相はいわば「ポピュリズムの象徴・権化」であるにもかかわらず、わが社会の木 果に満足なさった大衆!がさらに支持率八○%のご祝儀相場をお作りになった。かくし 要するに、人気絶頂新首相は大衆の訳のわからぬ!人気によって登場し、人気投票結

なにやらボナパルティズムが彷彿するなあ。 大衆以外の層にこそ大事な政策あり――とおっしゃっているように見えるじゃないか。 その本心を覗くに、人気は大衆的に維持せよ、されど政策は大衆受けしちゃいかんぞ。

図である。

るで「鵺」じゃないかね。 頭は大衆、胴体は自民党=有産階級・政界・官界・財界ってな雰囲気。これじゃあま

靖国参拝は「わが経済大国の礎作った先人たちへの感謝と慰安の念を表明するのだ」

ぬために出征した。 いし、私の常識では大部分は「赤紙」届いたことを心底嘆きつつ、「非国民」と言われ という。しかし、先人たちは将来の経済大国を達成するために唯々諾々死んだのではな

論理に大衆を引きずり込もうとする意図明々白々。本質無視、大衆を煽動する、これぞ 的評価を混乱させ、「いつまでも参拝是非論を持ち出す外国はしつこい」という単純な 先人たちへの感謝の念と言えば、反論しにくいが、実は戦争責任をあいまいにし、歴史 私の見るポピュリズムの権化である。新聞は明確に書け。 かの神社は国営、かつ戦争責任担わにゃならぬA級戦犯また合祀されている。一見、

一神の国発言より靖国参拝論は悪質である」と。

2001.5.7 (月)

## 庶民的人気と権威・権力

№三四五

最近庶民的人気ありとされる政治家たちのリーダーシップ・スタイルには共通的特徴

を振り回す」「唐突的行動」などなど。されど… 「よく喋る」「独断専行」「強引」「目立とう意識」「優等生タイプ」「権威主義」「権力

点がある。

立とう意識と重なれば、世論うけ、マスコミうけ狙いになりかねない。これ、ポピュリ 必ずしも雄弁とは言えず、かえって中身が薄くなる危険性もあるから要注意。そこへ目 饒舌は内省を欠きやすい。発信力はあっても受信力が弱くなりがち。言葉が多いこと

ズムの断片。

そしりを免れない。理想は高いほうがいいが、そこへ到る道は必ずしも容易ならず。現 実主義に覆されやすい。 唐突的行動はアイデア豊富なお方の美徳ではあるけれど、えてして準備不足、軽率の

権威主義、権力主義はもっとも民主主義から遠いリーダーシップにして、振り回され